

高品質な印刷物提供
UV調色名人で特色対応

E.P.

情報印刷

のお陰で設置後、2カ月で
披露することができる。勉
強を重ねコールドフォイル
を抜げていきたい。印刷に

能にした。そして平成24年
さらなる生産性の向上・新
規事業への取り組みを目的
とし、新工場『2ndフア

ではH-UV搭載の菊半裁4色機「リストンS26」とdrupa2012で発表されたデジタル印刷機「I

の追い刷りや極小ロット・超短納期対応におけるオフセットによる新しい可能性の提案を行った。たゞ今回はじめて、(「観てきた」)今後のジジう製品だと述べた。



「UV調色名人 UVジュニア」

同フエアのはじめにあります。を行つた小森善信執行役員国内営業本部本部長は、「昨年は東日本大震災と長引く不況の中で、多くの企業が販促費などの経費を削減してきている。そうした中で比較的、小規模ではあるが新しいサービスや商品を提供する小売業・飲食店が増えているようを感じる。こうした企業の販促活動のキーワードは『多様化』『スピード』だ



実機実演

こだま印刷株（東京都新宿区、大竹俊夫社長）は今年3月に菊全6色+ニスコ
ーター（インライン検査装置付）、菊全4色、菊半5色、菊半4色のH-I UV印
刷機を導入するなど、これから印刷業界の進むべき方向を検討した中での設備
投資を行っている。こだま中で同社ではニーズの多いUV印刷での特色に対応
すべく谷口インキ製造株のUVインキ調色システム「UV調色名人 UVジュー
ア」を導入し、常に高品質な印刷物を提供している。

同社がUV印刷を採用した経緯について照井義行専務取締役は「これからUV印刷を採用することになりました。環境への配慮はもちろん、裏つきが少なくてUV印刷に対応できる」と述べた。環境への配慮はもちろんですが、料金が高くなるUV印刷は、コスト面で競争力を失う可能性がある。そこでUV印刷の特徴である短納期に対応できるといつた点もある。また、これまでUV印刷はパッケージ主体だったが、商業印刷でも多く見られるようになってきたので、パッケージとは異なる分野で展開していく」と話す。

UV印刷は、料金が高くなるUV印刷の特徴である短納期に対応できるといつた点もある。また、これまでUV印刷はパッケージ主体だったが、商業印刷でも多く見られるようになってきたので、パッケージとは異なる分野で展開していく」と話す。

計量から搅拌まで自動的に

「だま印刷

も理由となつてゐる。

照井專務